東日本大震災ボランティアの記録
２０１１年～２０１３年

立正大学社会福祉学部ボランティア活動推進センター

2011 年度

東日本大震災ボランティアの記録

こちらの記録は 2011 年度立正大学社会福祉学部ボランティア活動推進センターの報告書から抜粋したものです。

(2) 震災関連の活動

立正大学 東日本大震災ボランティア（第１回）活動報告

2011年5月6日

立正大学社会福祉学部ボランティア活動推進センター長
金子　充

下記のとおり、立正大学東日本大震災ボランティア（第１回）を実施した。

【活動場所】

宮城県気仙沼市（気仙沼市立南気仙沼小学校、および周辺の住宅街）

【活動内容】

1. 津波で浸水した南気仙沼小学校校舎内に堆積した泥のかき出し、漂着物の撤去
2. 気仙沼市内の民家脇にある側溝の泥のかき出し

【日程】

2011年4月30日（土）～5月3日（火）

4月30日（土）8:00　熊谷校舎出発
羽生IC経由、那須塩原SA・菅生PAにて休憩、14:30一関IC着
15:30　一関市小梨公民館到着
5月　1日（日）9:00～15:00気仙沼市内で作業、16:00気仙沼湾状況確認
5月　2日（月）9:00～11:30気仙沼市内で作業、強風のため2時間で作業中断
12:00　気仙沼市ボランティアセンター訪問
14:00　陸前高田市街状況確認
5月　3日（火）8:00　一関市小梨公民館出発
一関IC経由、菅生PA、那須塩原SAにて休憩、17:15羽生IC着
18:00　熊谷校舎到着、片付け、19:00解散

【受入機関】

気仙沼市ボランティアセンター（気仙沼市社会福祉協議会）
〒988-0066　宮城県気仙沼市東新城2-2-1気仙沼市民健康管理センター「すこやか」内

【宿泊場所】

一関市立小梨公民館

住所：岩手県一関市千厩町小梨字堂ケ崎 30-5

【経費】　・交通費（学長室より支援）

・食費等として１人当たり２千円（学長室より支援）

・ボランティア保険加入料（学長室より支援：加入手続きはボランティアセンター）

【参加者】　総員 25 名　（大崎学部生 13、

熊谷学部生 6、院生 2、教員 2、職員 2）　＊うち、男性 18、女性 7

泥の積もった教室。
津波は天井付近（2m）まで達した。

そろいの「立正ベスト」を着ての
チーム作業。性別、経験に関係なく、
皆が最大限の力を発揮した。

↑ 仏教学部生が読経し、皆で涙を流した。
↓ 津波で壊滅状態になった気仙沼市街地。

【実施までの経緯と現地報告】

東日本大震災があった直後から、ボランティアとして被災地で支援をおこないたいという学生の声がボランティアセンターに寄せられるようになった。当初の段階では、現地入りすることよりも募金という形で支援することの意義を確認し、ボランティアセンターとして熊谷駅前にて街頭募金をスタートさせた。

同時に、大学内各部署および立正中学・高校の尽力により、立正大学震災ボランティアとして気仙沼を活動拠点として学生を被災地に送り込むための準備が整えられた。また学長の配慮で、今回のボランティアにかかる費用の一部を出資していただけることが決まった。そこで、4 月下旬になり急きょ「立正大学東日本大震災ボランティア」を試行的に実施することを決定し、学生を募ることとなった。宿泊施設および交通手段に限りがあったため参加可能な人数は限られたが、教職員の声かけによってわずか 3 日のうちに 21 名の学生が確定した。

活動場所となった南気仙沼小学校は気仙沼湾から 500mくらい内陸の川沿いにあり、被害が甚大な地域であった。小学校には高さ 2mの津波が 7 回押し寄せ、校舎内には泥と漂着物が堆積していた。

今回の参加者たちは、一つの思いを胸に集まった学生たちである（参加者は、社会福祉学部に限らず全学部から集まった)。とりわけ「選りすぐりのメンバー」というわけではなく、ごくふつうの学生の寄せ集めであり、モチベーションも特性も異なるバラバラの個人であった。だが、被災地・被災者のために何かをしたいという強い思いを共通して持っていた。

大学を出発した翌日の朝から、南気仙沼小学校内での「泥出し」の作業が始まった。活動を進める中で、バラバラだった 21 人の学生が急速に距離を縮めた。体格の良い男子学生も、小柄な女子学生も、自分のパワーを最大限に発揮して活躍していた。震災ボランティアにとって性別や経験の有無は決して関係ないのだと感じた。

小学校の校長先生・教頭先生が見守ってくださる中で、学生たちは現地の被災者の期待を肌で感じはじめたようだった。まさに、泥かきが必要とされていた。学生たちは泥かきにのめり込んでいく中で、様々なことを考えたにちがいない。泥の中から家族の写真や教科書やぬいぐるみが出てきた。津波はたくさんの人の命を奪い、この街のすべてを奪ったのだ。この憎い泥を一刻も早く消し去りたかった。

私たちはその日、小学校の 1 階部分のほとんどの泥をかき出すことに成功し、気仙沼市ボランティアセンターの担当者からは「ふつうは 3 日かかるところを立正さんは 1 日でやってくれました」とお誉めの言葉をいただいた。校長先生の笑顔もあった。

夕方、被害が最も大きかった海に近い地域に立ち寄った。街がすべてなくなっていた。車を降

り、仏教学部の学生たちが読経をしてくれた。お経が響き渡る中で、メンバー全員で祈りながら涙を流した。どうか安らかに眠ってほしい。皆がそう心から願っていた。

その日、私たちは一つの「チーム」となった。バラバラだった個人の思いが結集し、被災者への思いとなって一体化したように思えた。私たちの思いは、被災地というより、被災者へとまっすぐに向けられていた。被災者ないし死者への思いが、私たちをひとつにしたように思えた。

震災ボランティアは、学生に「良い体験」をさせることを目的におこなうべきものではない。被災地は「教材」ではない。今回の場合、被災者は、私たちに泥をかくことを求めている。泥が憎くて、悲しくて、悔しくて、泥がかけない彼らの代わりに、私たちがやるべき任務である。このつらい作業は当事者にはあまりにも酷である。この作業をできるのは私たちボランティアしかいない。参加したすべての者が、こうした現地の痛みを感じることができたのではないかと思う。

二日目は大変な強風の中、朝から民家の側溝の泥出しをおこなった。強風のため作業は昼前に中断となり、私たちは気仙沼市ボランティアセンターに戻った。ボランティアセンターでは「立正さんにはもっと働いてもらいたかったが、強風で中断となり残念です」との話をいただいた。

午後は、気仙沼から20ｋｍほどのところにある陸前高田市を訪問した。すべてが流されてしまった市街地の中心に立ち、私たちはまた祈りをささげた。

気仙沼と陸前高田を訪問し、今後復興までにかなりの時間がかかるであろうことを肌で感じた。被災地は今後も確実に継続的なボランティアを必要としてくるだろう。私たちに何ができるかを考え、ふたたび震災ボランティアを企画するのであれば、参加する学生には事前研修や「チームづくり」をしっかりおこなう必要性が生じてくるかもしれない。だが、被災者への思いを共有できる者であるなら、誰でもこのボランティアには参加できると確信している。

そして、東日本大震災の記憶が風化しないように、また学生たちの被災者への思いが冷めてしまわないように、震災ボランティアの役割、あるいは被災地を知ることの意味を伝えていかなければならないと感じている。

立正大学 東日本大震災ボランティア（第２回）活動報告

2011年9月20日

立正大学社会福祉学部ボランティア活動推進センター長
金子　充

下記のとおり、立正大学東日本大震災ボランティア（第２回）を実施した。

【活動場所】

岩手県陸前高田市（同広田町内の民家跡地）［A班・D班］
宮城県南三陸町（入谷公民館、および旭ヶ浦地区）［B班・C班］

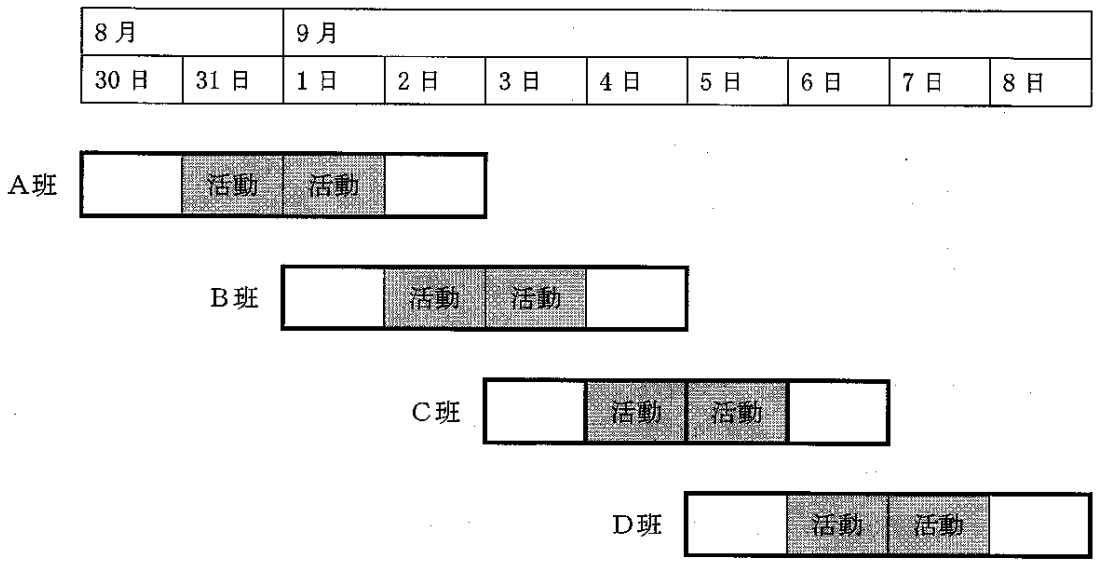
【活動内容】

1. 民家跡地にて瓦礫・漂着物の撤去・分別、草取り
2. 側溝清掃
3. 公民館作業（「ひまわり狩り」）

【日程とスケジュール】

2011年8月30日（火）～9月8日（木）（4日間×4セット）

A班：8月30日（火）～9月2日（金）熊谷キャンパス発着〔26名〕
B班：9月1日（木）～9月4日（日）大崎キャンパス発着〔24名〕
C班：9月3日（土）～9月6日（火）熊谷キャンパス発着〔26名〕
D班：9月5日（月）～9月8日（木）大崎キャンパス発着〔23名〕



【活動記録】

1日目：	8:15	熊谷校舎 or 大崎校舎集合
	8:30	出発、途中SAにて昼食
	15:00	宿泊先到着、道具の準備・チームづくり等
2日目・3日目：	7:30	宿泊先出発
	9:00	各災害ボランティアセンター着、活動開始
	12:00	昼食（各自あらかじめスーパー・コンビニ等で購入）
	15:00	作業終了
		被災地見学、法要等
	16:30	宿泊先帰着
4日目：	10:00	チェックアウト、途中SAにて昼食
	17:00	熊谷校舎着 or 18:00 大崎校舎着

【参加者】　総員99名（学生等：90名、教職員：9名）
＊全学部・全学科からの参加があった。

【受入機関】

陸前高田市災害ボランティアセンター
岩手県陸前高田市横田町字狩集96-3

南三陸町災害ボランティアセンター
宮城県本吉郡南三陸町志津川字沼田56

【宿泊施設】

一関　サンホテル衣川荘　（平泉前沢ICから3分）
〒029-4421　岩手県奥州市衣川区日向60-2

矢びつ温泉　瑞泉閣　（一関ICより20分）
〒021-0101　岩手県一関市厳美町字下り松65-2

いつくし園　（一関 IC より 8 分）

〒021-0101　岩手県一関市厳美町南滝の上 15

【経費】

・交通費・宿泊費（学長室より支援）

・食費等として 1 人当たり 2 千円（学長室より支援）

・ボランティア保険加入料（学長室より支援）

立正大学東日本大震災ボランティア　反省会の記録

2011年10月12日

立正大学東日本大震災ボランティアについて、現地への同行した教職員による反省会が以下のとおり開催された。

【実施日時】

2011年10月11日（火）16:15～17:30　大崎キャンパス 1号館 第1会議室

【参加者】　ボランティアに参加した教職員6名

金子充（社会福祉学部：A班）、三沢一晴（経営学部：A班）、佐藤研一（史料編纂室：B班）伊澤高志（文学部：B班）、角田晋太郎（学長室：C班）、狩野拓也（法学部：C班）

【反省点と課題】

①活動場所について

活動場所は前回の気仙沼から継続したかったが、現地のニーズおよび受け入れ側の事情等により陸前高田へ変更となった。そのため情報収集や状況判断に時間がかかり、決定が6月下旬になってしまった。また、現地のニーズは刻々と変化していたため、作業内容を確定することができなかった。本学震災対策本部と社福ボラセンの連携不足等の課題もあった。

②宿泊先について

活動場所と宿泊地が遠すぎるとの指摘が多くあったが、多人数（50名）が宿泊できる場所を確保しなければならなかったため、沿岸部から近い適切な宿泊先を見つけるのが困難であった。また、被災地の惨状から距離を置く必要性と、炎天下での作業を想定していたため、沿岸部の公民館や体育館での宿泊ではなく、入浴施設のついたホテルとした。しかし、結果的に3ヶ所バラバラになってしまった。

③学生募集について

7月中旬に各キャンパスにて掲示によって募集をし、2日間で定員を充足した。公平性を期したつもりだったが、学生同士の口コミや部活動のネットワーク等により一部の学部学科の学生に偏重していた部分もあった。募集期間および方法の妥当性について課題が残された。

④準備・事前説明会について

8月上旬に事前説明会を開催した。告知が十分にできず参加率が低かった。そのためチームの形成や参加目的等の共有といったガイダンスが十分にできなかった。

⑤台風対応について

活動開始2日目（A班の活動中）に台風が接近し、陸前高田市内での活動ができなくなった。

そのため、現地（宿泊地）から急遽、台風による雨天時でも活動をおこなえる別の地域を探し、宮城県南三陸町と決まった。台風の接近はA班の出発時点である程度予測できたが（かなりの大型台風が停滞することは想定外）、出発前に十分に準備あるいは危機管理することができなかった。

⑥教育的配慮等について

本企画の目的について、参加者の間で十分な合意ができていない部分があった。純粋なボランティアとして行くのか、一定の教育効果をねらった大学のプログラムなのか（そうであれば学生に事前学習と振り返り等の教育的配慮をすべきであった）、性格づけができていなかった。

あるいは、学生が自主的に企画・運営するかたちでの参加型の企画にするという方法もあったが、すべて大学がお膳立てをする結果となってしまった。これらができなかった要因はボランティアセンター長の責任によるところが大きいと認識しているが、キャンパス間・学部間の連携上の課題、震災対策本部（学長室）とボラセンとの連携上の課題、および社会福祉学部ボラセンの位置づけ（学部付置）の問題もあった。

【討議】

・学生に対する事前のガイダンスは大変重要であるが、今回はそれが十分にできていなかったためいくつかの問題が生じた。例えば、遅刻をしたり、就寝時間が遅かったり、昼食をほとんど食べなかったりする者がいた。また、各班ではバス内で若干のガイダンスをおこなったが、班ごとにバラバラの内容であった。共通化した内容で丁寧なガイダンスが必要だった。

・現地に案内役やコーディネーターとなる人物がいると理想的だ。B班では現地の方が被災地を案内してくれた。案内役が難しいようなら、本学の誰かが事前に現地入りして情報収集をしたり、ボランティアの活動場所をチェックしたりできればなおよかった。

・今回参加した各班の教職員は、本部機能を担うことになり、事実上の「引率者」（責任者）となった。2名の教職員で25名の学生の責任を負うのは最低限のラインであろう。事実上の責任者となるなら、もっと教職員の参加者を増やす必要がある。また、参加する教職員の募り方も要検討である。

・一般論として、被災地の惨状を見たり被災者と直接かかわったことで精神的ダメージ（PTSD等）を受ける者が多いとされている。その対策やフォローについては十分な対応ができていなかったのではないか。今回の参加者にそのような症状の者がいないか、確認してもよいだろう。

・被災者とのふれあいの機会をもっと設けることができたらよかったかもしれない。もちろん、十分な事前ガイダンスとアフターフォローを準備した上で。

・昼食は学生に買わせるのではなく、あらかじめ準備したほうがよい。

・事前ガイダンスが十分にできていなかったのと同時に、振り返りの機会をつくることもできていなかった。純粋なボランティアとして終わらせるという考え方もあるが、教育的な配慮をするのであれば、学生に振り返りをさせること（作文、報告会等）も有意義だろう。どちらの考え方もありえる。とはいえ、B班が日程中にグループディスカッションをしたり、C班が帰りのバスで反省会をしたことは良い機会だった。

・学生の声や反応を広報誌やホームページ等でもっと発信すべきだろう。他大学では、これから

震災ボランティアに個人等で行く者に向けたペーパーが発行されている。ドキュメンタリーをビデオ撮影するゼミなどもある。

・他大学では、もっと学生主体による振り返りや報告会もおこなわれている。本学でも橘花祭・星霜祭それぞれで講演会等が企画されているのは良いことだ。

・社会福祉学部ボランティアセンターの役割は重要であった。もっと全学的な活動がしやすい体制をとれるようにしてはどうか。

【まとめ】

参加した学生に対して事前のガイダンスとふりかえりが十分にできなかったことについては、大きな責任を感じている。事前ガイダンスについては、主体的に参加する学生であれば一定のモラルやモチベーションを説明するまでもないと個人的には考えていたが、100 人規模で組織的におこなう企画であることを前提に備えるべきであった。また、ふりかえりの機会についても十分ではなかった。参加者自身に対して、物見遊山で終わらせないためにも全体として反省会や意見交換会などを設けることは必要であったと考えている。

今後もし再びこのような震災ボランティアの支援にかかわるような機会があれば、もっと学生主体の企画にしていくよう提案していきたい。また、大人数で被災地へ行って「体力勝負」の活動をおこなうような企画ではなく、個人のボランティアを支援する仕組みづくりや、ゼミや学科単位での演習的な取り組みのサポートができたらよいかもしれない。ただ、現在の社会福祉学部ボランティアセンターの組織体制のまま全学のコーディネートを継続していくことには限界を感じている。今回、教職員だけであったが、このような反省会をおこなうことができて大変有意義であった。反省会も本来は参加者全員でおこなうことが望ましかっただろう。

（文責：金子）

ボランティアセンター学生スタッフによる街頭募金　報告

東日本大震災の義援金として、私たちは募金活動を行いました。また立正大学から寄付金を頂き、日本赤十字社に送金しました。

募金活動は、3 月から夏休みの 8 月を除いた 12 月まで JR 熊谷駅の北口と南口で行いました。以下の表は、募金活動を実施した日にちと集まった義援金の総額です。

街頭募金実施日（2011 年）

月	実施日
3	17 日～23 日
4	11 日～15 日
5	11 日・13 日
6	8 日・9 日・15 日・22 日・29 日
7	6 日・7 日・13 日・14 日
9	21 日・22 日・28 日・29 日
10	5 日・6 日・12 日・13 日
11	9 日・10 日・16 日・17 日
12	7 日・8 日・14 日・15 日

募金総額

¥2,854,027　　＊全額を日本赤十字社に送金しました。

(3) ボランティア講座

平成23年度　第1回ボランティア講座
「震災を考えよう～私たちにできること～」　報告

1. 企画の目的

実際に東日本大震災の被災地の現場を見に行った先生方の話を聴いて私たちに今できることを改めて考え、今後のボランティア活動につなげる。

2. 日　時

2011年6月28日（火）4限　(14：30～16：00)

3. 場　所

アカデミックキューブA201

4. 講　師

金子充，清水海隆，村尾泰弘，

5. 対　象

全学部

6. 参　加　者

講師・・・・・4名　　学生・・・・・111名　　一般・・・・・0名
教員・・・・・2名　　スタッフ・・・9名　　計126名

7. アンケート結果

①参加者内訳

学科・・・	社会福祉学科	26名
	人間福祉学科	83名
	法学科	2名
	環境システム学科	0名
学年・・・	1年生	93名
	2年生	2名
	3年生	3名
	4年生	13名

②アンケート内容

1) 本日のイベントを何で知りましたか。(複数回答可)

ボランティアセンター　22名　講義　68名

ポスター　1名　ビラ　22名

友人　22名　メールマガジン　1名

その他　12名（ゼミの先生の紹介）

2) イベントの内容はいかがでしたか。

満足　48名　やや満足　40名

普通　25名　やや不満足　0名　不満足　0名

3) イベント時間はいかがでしたか。

長い　7名　やや長い　17名

普通　85名　やや短い　1名

短い　1名

4) スタッフの対応はいかがでしたか。

満足　22名　やや満足　12名

普通　57名　やや不満足　6名

不満足　3名

5) 今後もボランティア講座では、震災に関連した内容を開催したいと考えていますが、どのような内容を取り入れてほしいですか？

- 村尾先生が話されたストレスに関して詳しく聞きたかった。
- 講座を2時間や何日間に分けてやってほしい。
- 次回も学生の報告があったらいいと思った。
- 今回のような報告会がまた聴きたい。

- なぜ逃げ遅れた人がいたのかなどの今回の震災での問題点が知りたい。
- 被災地の現在の状況や被災者の生の声を知りたい。
- 建物の様子を知りたい。
- 報道にあまり取り上げられていなくても被害が多く出ているところのことが聞きたい。
- ボランティア活動をしている時の映像や復興していく様子を撮った写真が見たい。

- ボランティアについてもっと具体的な活動内容やニーズを教えてほしい。
  (地元の高校生ボランティアの一日の動きなど)
- 今後も立正大学からボランティアに行く予定はないかなど知りたい。

・ 被災地に行かないでもできる支援を知りたい。

・ 節電について知りたい。
・ 原発のことを知りたい。
・ 被災地の子供たちや震災孤児の現在の生活状況や心理状態が知りたい。

6) 本日の講座のご意見・ご感想等をお聞かせください。
・ 震災の恐ろしさを改めて感じることができた。
・ 自分たちにできることを考えることができ、今回参加してよかった。
・ 2011年3月11日を忘れてはいけないと思った。
・ 今後も活動を続けるべきであると思った。
・ 内容は興味深いものばかりだった。
・ 写真を見てすごくショックを受けた。
・ 先生方がそれぞれ伝えたいことを、あらゆる視点から聞くことができてよかった。
・ 学生の話も直接聴けたので身近に感じた。
・ テレビで被災地の状況を観たりしていたが、やはり実際に行った人たちの話を聞けてよかった。私たちが知らないような状況を知れたのでためになった。
・ 仏教学部の先生や学生が読経してくださった話が印象に残った。立正大学でしかできないボランティアではないかと思った。
・ ボランティアとは、被災者のために必要な事なのかもしれないが、ボランティアをする側にとっても大きな影響、経験、知識を与えてくれると思った。
・ ボランティアをすることは、自分が思っている以上に大変なことだと思った。被害にあっていない私たちは他人事にするのではなく、もっと考えるべきだと改めて思った。
・ ボランティアで必要な心構えが分かって本当に勉強になった。
・ 授業と連動していたのもあり、人数の確保ができてよかった。
・ 時間がないと言って早口になっていたことが気になった。もっと事前に時間の確保をしておく必要があったのではないか。
・ 今回は自校の先生方の講座だということもあったが、外部の講師を呼ぶ際には私語の注意をする必要があると思った。
・ 改めて震災について考えた。一度ボランティアに行ったが、もう一度行きたいと思った。
・ 自分も震災後 4 日目から被災地でのボランティアを行った。被災地でのニーズ調査と高齢者のケア、衣類梱包、おにぎり作り、高齢者の施設での受け入れなどを行ったため今回の講義はとても身近に感じた。

8. 反　省

【前日まで】

悪かった点

・ 講座の宣伝のための授業ジャックで、先生との連携が取れていなかった。
・ 講師の先生ともっと打ち合わせをすればよかった。
　（講義内容の確認、当日の流れなど）
・ 本番の細かいところを想像して準備すればよかった。
・ 印刷物などの用意を分担して、もっと効率よく準備すればよかった。
・ カメラを準備しておけばよかった。
・ 金子先生任せのところが多かった。
・ スタッフ全員の連携が取れていなかった。もっと全員で協力すればよかった。
・ スタッフジャンパーを準備していなかった（今後は腕章にした方がよいと思った）。

【当日】

良かった点

・ 参加者が多かった。
・ 参加者がまじめに聞いてくれた。
・ 進行に大きな問題点もなく、スムーズに進んだ。
・ 講座の時間が長過ぎず、ちょうどよかった。
・ 時間通りに終われた。

悪かった点

・ 私語の注意を行えばよかった。
　（司会が全体に対して注意、スタッフが個別に注意）
・ 自分でできることは、自分で考えて動けばよかった。
・ 後ろの扉を締切るかどうかを徹底すればよかった。
・ 先生方の持ち時間が少し押してしまった。
・ 自分の仕事を把握していなかったスタッフがいた。
・ ゼミの参加者の私語がうるさかった。結果的に人数稼ぎになってしまった。
・ 講師の先生が話している最中に終了時間を迎えた場合、タイムキーパーの対応をどうすればいいのか決めていなかった。打ち切りにするのは悪印象を与えないか。
・ 当日の講座で企画担当か3年生のどちらが仕切るのかが不明確だった。

平成23年度　星霜祭
「震災を考えよう～支えあう命、復興支援から学ぶ～」　報告

1. 企画の目的

命の大切さ・現在ボランティアに求められているニーズ・被災地の状況について知ってもらい、今後の参考にしてもらう。

2. 日　時

2011年11月6日（日）10：30～14：30

3. 場　所

9号館多目的ホール

4. 講　師

鈴木　浩介（昭和大学　横浜市北部病院呼吸器センター勤務　医師）
平川　ちひろ（NPO勤務）

5. 対　象

全学部

6. 参　加　者

講師・・・・・2名　　学生・・・・・11名　　一般・・・・・4名
スタッフ・・・11名　　計17名

7. アンケート結果

①参加者内訳

一般　4名
学生　1名

②アンケート内容

1）本日のイベントを何で知りましたか。（複数回答可）

ボランティアセンター　1名　ポスター　1名
友人　1名　メールマガジン　1名
その他　2名（公開講座）

2) イベントの内容はいかがでしたか。

良かった　3名　とても良かった　0名

普通　3名　物足りない　0名　つまらない　0名

3) イベント時間はいかがでしたか。

長い　0名　やや長い　2名

普通　4名　やや短い　0名

短い　0名

4) スタッフの対応はいかがでしたか。

とても良かった　2名　良かった　1名

普通　3名　あまり良くない　0名

悪い　0名

5) 今後もボランティア講座では、震災に関連した内容を開催したいと考えていますが、どのような内容を取り入れてほしいですか？

- 震災関係で子供の様子について重点を置いてほしい。
- 話を聞いているだけじゃなく、聞いている人も巻き込んでやったらいいと思う。
- 学生の報告があったらいいと思った。
- 大きいことではなく、身近に感じられるものがいいと思った。

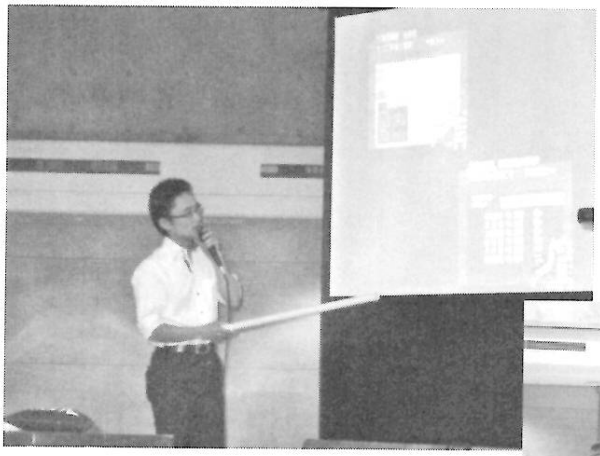
6) 本日の講座のご意見・ご感想などをお聞かせください。

- お医者様の話が興味深かった。
- 場所が悪い。
- 人が集まるところでやった方がいい。
- 内容は興味深いものばかりだった。
- スライドショーに感動した。

8. 反　省

- 部活で参加できなかった。
- 今後は活動に参加していきたい。
- 当日は午前中しか参加できなかった。
- 呼び込みが少なかった。
- パソコンなどの準備不足。
- プロジェクターが見えづらい椅子の配置だった。
- 会場の場所が分かりづらい。
- ジャックや宣伝の時には場所の確認をする。
- 自主的に行動すればよかった。

・ 借用物の確認。
・ リハーサルが押してしまった。（時間調整）
・ 講座開始直前に設備の確認。
・ 司会の進行がスムーズにいかない部分があった。
・ 質疑応答のマイクの対応。



2011年度　第2回ボランティア講座
「震災を考えよう　～3.11から学んで活かす～」　報告

1. 企画の目的

学生たちに震災やボランティアについて、より深く学んでもらい、今後の震災、ボランティアへの関わり方について考えてもらう。また、ボランティアセンターの学生スタッフが各チームに分かれ、自分たちで震災やボランティアについて調べ、学生とともに多くの知識を得て、今後の支援のあり方を考えることを目的とする。

2. 日　時

2011年12月6日（火）5限　(16:20～17:20)

3. 場　所

アカデミックキューブA204

4. 対　象

全学部

5. 参　加　者

学生・・・・・9名　　一般・・・・・0名
教員・・・・・2名　　スタッフ・・・24名　　計35名

6. アンケート結果

①参加者内訳

学科・・・	社会福祉学科	7名
	人間福祉学科	2名
	法学科	0名
	環境システム学科	0名
学年・・・	1年生	4名
	2年生	3名
	3年生	0名
	4年生	2名

②アンケート内容

1) 本日のイベントを何で知りましたか。(複数回答可)

ボランティアセンター　1名　講義　6名
ポスター　1名　ビラ　2名
友人　3名　メールマガジン　1名
その他　0名

2) イベントの内容はいかがでしたか。

とても良かった　4名　良かった　3名
普通　2名　あまり良くない　0名　良くなかった　0名

3) イベント時間はいかがでしたか。

長い　0名　やや長い　2名
普通　6名　やや短い　1名
短い　0名

4) 今後も立正大学として震災ボランティアを継続していきたいと考えていますが、その時はどんなことをすべきだと思いますか？

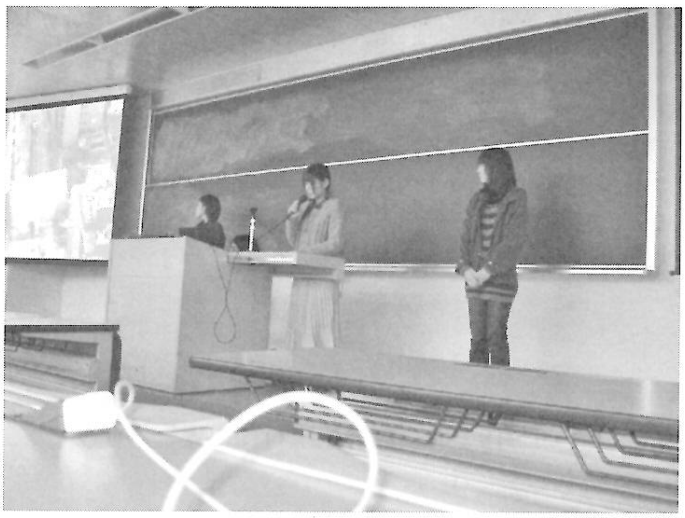
- 自分たちも積極的にボランティアに参加することで、被災者の方の力になる。
- 被災地の方に迷惑にならないように喜んでもらえることをしたい。
- さらに細かな情報収集を行い、被災者のニーズに合わせたボランティアを行うこと。
- 一口にボランティアといっても、献血や募金、人員の派遣など多岐に渡るので、状況を見ながらその時々に応じたボランティアを進めていった方がいいと思う。
- 講座を行うことをもっと宣伝した方がいいと思った。
- 心に傷を負った人達の話し相手になる，教科書・参考書の配送，瓦礫の撤去，被災した家や施設、会社の復興支援，復興した地域の観光のお手伝い，必要な物資の供給。
- もっとボランティアセンターについて案内するなど、まずは一般の学生にボランティアセンターとその活動内容を知らせることが必要だと思う。そして、みんなでボランティアについて考えるべきだと思う。(ポータルサイトに載せる、掲示板、学内放送など)

5) 本日のイベントのご意見・ご感想をお聞かせください。

- 少ししか参加できなかったが、機会があればまた是非とも参加したいと思った。
- 自分もできることから被災地に貢献し、ボランティアに参加できる機会があったらいいと思った。
- もう少し各ゼミでアナウンスしてもらうなど、宣伝に力を入れるとよかったと思う。
- 震災から時間が経ち、みんな忘れがちになってしまったと思うけれど、定期的に震災について考える場を設けるのは、いい機会になると思った。
- 最近では規模の大小にかかわらず地震の回数が増えている気がする。いま関東では大規模な

地震が発生することが予測されており、このようなイベントは地震の恐さを知るだけでなく、これから起こる可能性の震災から身を守るため、あるいは復興へと向かうために何が重要なのかについて考える、よいきっかけになると思った。

- 私は募金などの間接的な支援しか行っていないが、今後も自分ができることを続けていこうと思った。
- 災害そのものだけではなく、被災した子供の心のケアや災害時の備え、ボランティアのニーズについてなど、さまざまな視点から震災についてまとめられていて、とても参考になった。
- 今回初めて参加したが、とても説明が詳しく、受けていて本当にためになった。自分は現地に行くなど実際に直接ボランティアに参加したことはないが、これからは積極的に参加したいと思った。
- 地震の種類やそれによって起こる現象など詳しく聞けてよかった。いまだに余震も続いているなか、いつまた大きな地震が起こるか分からない状況で、今日の内容はもっと多くの学生が聞くべきだと思った。ボランティアセンターにはこれからも頑張って欲しい。



2012 年度

東日本大震災ボランティアの記録

こちらの記録は 2012 年度立正大学社会福祉学部ボランティア活動推進センターの報告書から抜粋したものです。

(2)震災関連の活動

平成24年度　被災地ボランティア　活動報告
いわてGINGA-NETプロジェクト（夏銀河）［第1期（8月）］

1.　活動場所

釜石市ほか、岩手県沿岸南部を中心とした地域

2.　活動内容

・応急仮設住宅（お茶っこサロン、子どもの居場所支援、学習支援）
・イベント支援

3.　活動期間

2012年8月8日（水）～　8月13日（月）

4.　活動スケジュール

1日目:	7:00	森林公園北口発、途中SAにて昼食
	15:15	旧下有住小学校（拠点）到着
	17:40	視察
	20:00	オリエンテーション、グループ活動
	23:00	消灯
2～5日目:	6:30	起床、朝食
	8:30	活動開始
	12:30	昼食
	15:00	活動終了
	20:00	振り返りミーティング
	23:00	消灯
6日目:	6:30	起床、朝食
	7:00	校舎清掃
	9:00	最終振り返り、引き継ぎの作成
	12:00	拠点出発
	21:00	森林公園北口着

5. 参加者

学生　17 名

6. 宿泊場所

旧下有住小学校　校舎

〒029-2502　岩手県気仙住田町下有住中上 51-1

7. 入浴施設

※最寄りの入浴施設を利用

しゃくなげの湯っこ五葉温泉

〒022-0005　岩手県大船渡市日頃市町赤坂西風山 1-5

ホテルシーガリアマリン

〒026-0001　岩手県釜石市平田町 3-61-22

8. 参加者へのアンケート結果

※17 名中 11 名回答

1) 今回のボランティアを何で知りましたか。（複数回答可）

ボランティアセンター 5 名　講義 2 名　ポスター 0 名

ビラ 2 名　友人 3 名

2) 活動内容（量・質を含む）はいかがでしたか。

満足 9 名　やや満足 2 名　普通 0 名

やや不満足 0 名　不満足 0 名

3) ①活動本部（学生スタッフ）の対応はいかがでしたか。

満足 3 名　やや満足 3 名　普通 1 名　やや不満足 1 名　不満足 0 名

②プロジェクト本部やバスドライバーの対応や運行・サービスはいかがでしたか。

満足 4 名　やや満足 2 名　普通 0 名

やや不満足 2 名　不満足 0 名

4) 今後の被災地ボランティアでやってみたいこと、企画してほしいことはありますか。

・GINGA-NET さんとのつながり（冬銀河、春銀河）をつくりたい。

・海の砂浜の再生ボランティアがしたい。（東北は海が復興できなくて海開きができていないため）

・もっといろんな学校の支援や手伝いを時間いっぱいしたい。

・震災ボランティアセンターを通しての地域清掃活動。（がれきの処理など）

・報告会を開きたい。

5) 今回の活動を総括して、またボランティアセンター全体に関して、ご意見・ご感想をお聞かせ下さい。

・被災地ボランティアを継続してほしい。
・考えさせられたことも楽しかったこともあり勉強になった。
・活動を多くの学生に広げていきたい。
・他県から来た人々と情報を提供し合い、報告して今後につないでほしい。
・震災の記憶を風化させないでほしい。
・個人で行くのはなかなか難しいので、参加できてよかった。
・非常に充実した中身の濃い時間で楽しかった。
・ボランティアの奥深さを感じ、悩み深く考えて行動することができ、自分の成長になった。
・全学部にまんべんなくボランティア情報が伝わるようにするとよいのではないか。

9. 参加者の感想　(いわてGINGA-NET公式ブログより)

★　(配属先：松倉A)

初めての現地で行う被災地ボランティア。私は不安と期待を抱きながら参加しました。活動は学習支援、お茶っこサロン、災害VCとさまざまなボランティアをさせていただきました。そんな活動のなかで現地の方々や支援の方々とふれあっていくうちに、「被災地ボランティア」において私は具体的にどんなことができるのだろうか、そもそも「ボランティア」とはなんなのかまで考えました。答えはうまく見つかりませんでしたが、お互いに心が満たされれば良いなあなんて思いました。

この経験を生かして、私の地元である埼玉からでも被災地を支えていきたいと思います。銀河ネットさん始め、関わりを持ったみなさん、本当にどうもありがとうございました。またお会いしましょう。

★　(配属先：唐丹川目)

ほんとうに今回の夏銀河ではとても多くのことを学ばせてもらいました。ブラウン管越しに見る被災地の様子と実際に訪れて見る被災地の様子はまるで異なり、遠くからじゃ見えないものが近づいてやっと見えました。震災で多くのかけがえのないものが失われましたが、ゼロから生まれた新しい繋がりや絆もあるのだと、様々な経験を通して知ることができました。岩手で出会った人たちとの思い出、「ほんとうに来てくれてありがとう。」という言葉が不安や迷いを吹き飛ばしてくれて、元気を貰えたことは忘れられません。

ここで学んだことを周りに伝えていくことが僕たちにできる復興のサポートだと信じているので、これからもどんどん積極的に活動していきたいと思います。ありがとうございました。

★　(配属先：釜石市社会福祉協議会　生活ご安心センター)

最高の班に恵まれて、さらに素晴らしい経験をくれてありがとうございました。班とかどこでも一緒だろうと思っていたけど、この班で本当に良かったです。普通じゃ出来ないような事を出来たと思います。テレビで見てきた被災地とは全然違うことが、行くことによってできました。どこか心でかなりもう復興が進んでいるのではないかなと感じていた自分がすごく甘いなぁと感

じました。一番衝撃的だったのは、仮設住宅地の格差が物凄いことです。テレビで見ていたときはどこも一緒だろうと思っていたのに、場所によってたてた人も違えば、設備の充実度も違うし、雰囲気も違うし、イベントの量も違うし、支援物資の来る率も違うことを知り、めちゃくちゃだと感じました。でも、ただただ釜石市の人達はホントに温かかったです。自分が元気を届けるつもりで行ったのに、むしろ元気を貰ってしまいました。

今回の夏銀河はスタッフに恵まれ、班に恵まれ、釜石市の人達に恵まれ、ボランティアの仲間達に恵まれて最高のものになりました。最後にもう一度だけ言わせてください。ホントにありがとうございました。

いわてGINGA-NETプロジェクト（夏銀河）［第5期（9月）］

1. 活動場所

釜石市ほか、岩手県沿岸南部を中心とした地域

2. 活動内容

・応急仮設住宅（お茶っこサロン、子どもの居場所支援、学習支援）
・イベント支援

3. 活動期間

2012年9月5日（水）～ 9月10日（月）

4. 活動スケジュール

1日目:	7:00	森林公園北口発、途中SAにて昼食
	16:00	旧下有住小学校（拠点）到着
	17:00	視察
	20:00	オリエンテーション、グループ活動
	23:00	消灯
2～5日目:	6:00	起床、朝食
	9:00	活動開始
	15:00	活動終了
	20:00	振り返りミーティング
	23:00	消灯
6日目:	6:30	起床、朝食
	7:00	校舎清掃
	9:00	最終振り返り、引き継ぎの作成
	12:00	拠点出発
	19:30	森林公園北口着

仮設住宅での学習支援

拠点での様子

5. 参加者

学生　22名

6. 宿泊場所

旧下有住小学校　校舎

〒029-2502　岩手県気仙住田町下有住中上51-1

7. 入浴施設

※最寄りの入浴施設を利用

しゃくなげの湯っこ五葉温泉

〒022-0005　岩手県大船渡市日頃市町赤坂西風山1-5

ホテルシーガリアマリン

〒026-0001　岩手県釜石市平田町3-61-22

8. 参加者へのアンケート結果

※29名中18名回答

1)今回のボランティアを何で知りましたか。（複数回答可）

ボランティアセンター8名　講義6名　ポスター4名

ビラ7名　友人3名

2）活動内容（量・質を含む）はいかがでしたか。

満足15名　やや満足3名　普通0名

やや不満足0名　不満足0名

3）①活動本部（学生スタッフ）の対応はいかがでしたか。

満足13名　やや満足1名　普通0名　やや不満足1名　不満足0名

②プロジェクト本部やバスドライバーの対応や運行・サービスはいかがでしたか。

満足11名　やや満足3名　普通2名

やや不満足2名　不満足0名

4）今後の被災地ボランティアでやってみたいこと、企画してほしいことはありますか。

・GINGA-NETさんとのつながり（冬銀河、春銀河）をつくりたい。

・支援を継続していきたい。

・物資の配布や力仕事をしたい。

・他大学との共同活動がしたい。

・公共の施設を借りて（体育館等）レクリエーションをしたい。

・地域のお祭りの手伝いをしたい。

・遠野まごころネットさんから「立正大学さんもぜひ」声をかけていただいたので、つ

ながりをもってほしい。

5) 今回の活動を総括して、またボランティアセンター全体に関して、ご意見・ご感想をお聞かせ下さい。

・他県大学の活動内容を知ることができ、勉強になった。
・いろいろ考えさせられたが、みんなの意見を聞くことができてよかった。
・仮設住宅の子ども達に遊び道具を充実させたい。
・報告会をやりたい。
・時間把握が難しいとは思うが、時間通りで動いてほしい。
・積極的なボランティア活動を企画・運営してほしい。

9. 参加者の感想（いわてGINGA-NET公式ブログより）

★　　（配属先：大畑南）

僕たちは、夏銀河で色々悩み、相談し、活動しました。最初はなかなか住民の方々と打ち解けられませんでしたが、最後には孫とまで言ってくれました。この時、ボランティアに参加してよかったと思いました。しかし、被災地はまだ状況が良くありません。だから、これから被災地から帰ってきた僕たちができることは被災地の状況を発信し、一人でも多くの人たちに伝えることだと思います。絶対に震災を風化させてはいけないと思います。個人の意見ですが、これからは日本全体で被災地を支えていけたらと思います。ほんとに貴重な体験をさせていただきありがとうございました。また、冬銀河で岩手へ帰りたいと思っています。その時は違う状況が待っているでしょう。しかし、何か僕たちにできることがあればやりたいと思っています。ほんと短い間でしたが、ありがとうございました。

★　　（配属先：大畑西）

いわて GINGA-NET プロジェクトの活動には初参加だったのですが、仮設の方々は温かく迎え入れてくれました。大畑西は規模としては小さな仮設ですが、それ故にただサロン活動を続けて行くだけでなく、僕達ボランティアの工夫が求められる。そんな地区だと感じました。

地元に戻ったら、今回の活動で自分たちが見聞きしたことを伝えられる報告会のようなことが開ければと思います。そして、今回出会った方々に手紙などの形で、これからも寄り添っていければと考えています。銀河のキャストのみんなと、お世話になった仮設のみなさんに感謝しています。

★　　（配属先：平田第2）

僕が所属した 13 班は平田第 2 で活動を行いました。平田第 2 以外のサロンも同じ状態だと考えられますが、サロンに来る顔ぶれは毎回同じです。このことは悪いことだとは思いません。サロンに『来る』『来ない』は平田第 2 の住民が決めることであり、僕たちボランティアの役割は、あくまで『会話ができる空間』を作ることだと思います。　から僕たち 13 班は、サロン内の活動はもちろんですが、外回りをして外で活動している住民に声をかけその場で麦茶を飲んでいただくことで、自然と会話ができ、ボランティアの目的でもある『会話ができる空間』を作ることができたと思います。お茶っこサロンだからと言って中だけの活動では、隠れたニーズを探しだ

すのは無理だと思います。

住民参加型のイベント企画として『ひっつみ』を作りました。このイベントでは、僕たちボランティアは、本当に見ているだけで材料、道具、調理、全て住民の方々が積極的に動いてくれました。ボランティアはあくまで第三者であり、ボランティアが全て介入するのではなく、一歩引いて見守るという形を作ることで、住民同士のネットワークが作られると思います。イベントがメインではなく、あくまでお茶っこサロンがメインであり、イベントはサブみたいなものです。そこの認識を厳かにするとお茶っこサロンなのにお茶がないなど、問題が浮き彫りになってしまう恐れがあります。イベントで、何人来た？どのくらい売れたか？ではなくイベントを通して住民方々の笑顔の回数を数える必要があると思います。全体を振り返ってみると夏銀河に参加することで新たな価値観を発見することが出来ました。

一週間 13 班は問題を起こしてばかりで迷惑をかけてしまい申し訳ございませんでした。

支援が必要とされている限り…

本学の学生たちも継続的な支援を展開

社会福祉学部ボランティアセンターでは、この夏、被災地を支援するボランティア活動を展開。本学の学生37名が、NPO法人「いわてGINGA―NET」が主催する被災地ボランティア「夏銀河2012」（第1回8月8日～13日、第2回9月5日～10日）に参加し、岩手県釜石市と陸前高田市の仮設住宅や地元の小中学校において、「お茶っこサロン」活動、学習支援、支援物資の運搬、引越しのサポートなどを行いました。

教育的視点から取り組む私大ネットに加盟

このほか、本学では、東日本大震災後の東北（主に三陸沿岸地域）を復興するに当たって、今後10年間の継続的な支援活動を教育的視点から実施することを目的に結成された「東北再生私大ネット36（サンリク）」に加盟。今夏行われた南三陸研修プログラムにも、学生7名が参加しました。

本学では、今後も、被災地と被災者に対して継続的な支援を行っていきます。

仮設住宅内の集会所ではオープンなお茶会を開いて、被災住民の方たちの話相手になったり、子どもたちの遊び相手になったりしました。お年寄りや子どもたちの笑顔にボランティアの学生たちも励まされました

↑いわて GINGA-NET プロジェクトへの参加、活動が「立正大学学園新聞」（Vol. 119）に掲載されました。

埼玉学生ボランティアネットワーク　　わかたま

「わかたま」は埼玉県内に拠点を置く「埼玉県立大・聖学院大・立正大・東京国際大」の 4 大学の学生で構成されているネットワークです。「震災復興」をテーマに、みなさんと一緒に考え想いを共有し合い、今後のアクションにつなげるお手伝いをしたいという想いから、「つながれミライ」（11 月 24 日於聖学院大学）という催しを開催しました。

第 1 部には、いわて GINGA-NET 理事のあっきーさんこと早川 陽さんをお迎えし、学生パネラーとともにパネルディスカッションをしました。みんな真剣そのもので、質疑応答もたくさんあり、改めて関心の高さや学生のポテンシャルの高さを知らされました。

第 2 部はワークショップ。「ワールドカフェ」とよばれる手法を用いて、「関東（埼玉）だからできる復興支援」について対話しました。気兼ねないアットホームな雰囲気の中はじまりましたが、徐々に白熱した議論の場と化しました。

最後の各テーブルの発表では以下のような内容が挙がっていました。

伝える	イベント・交流
You Tube で被災地の現状を伝える	被災地の特産品で鍋パーティーをしよう！
TV 局に直談判	学内学外での募金活動
行って帰ったら沢山の人に伝える	アンテナショップとのコラボでイベント実施
小中学生への防災	祭り等での東北物品物販
定期的な新聞作り	被災地に行くだけでなく埼玉（関東）に来てもらう

それぞれのテーブルで独自の発表をしていましたが、軸としては大きく分けて「伝える」ということと、「イベント・交流」といったものに焦点が当たっていたように思います。「伝える」の中身としては、現状で風化といったものが言われるようになり、そうしたなかで、いかにして風化を抑制し、防災や避難している方の支援に繋げるかといったことが話し合われていました。また、「イベント・交流」では、風化が進行し3. 11の記憶が遠のく、東北が遠のくなかで、どのようにして東北の「良さ」を発信していくかといったことが話し合われており、イベント開催までのミーティングに顔を出してくれた東北で復興活動を行っている方も「いつかは 3.11 があったからではなく、本物で勝負したいし、そうなってくる」ということを話していました。いかに「本物」の「良さ」を発信していくかが今後、重要になってきます。そうした共通認識が形成されていたように思います。

ワールドカフェ総括

準備段階では、教室の備品確認やテーブルの配置等で足りていない部分等がありましたが、お互いにフォローし合うことでクリアすることができました。

当日、第 2 部ワールドカフェでは、司会が第 1 部の流れを上手く転換してくれたため、活発に意見が交わされました。それぞれの想いを言語化、共有を通して、ボランティアをやっている、やっていないに関わらず考えるきっかけになりました。また、今回のワールドカフェを通して、東北支援に限らずボランティアへの理解が広がったように感じます。

様々な大学の学生、教員、大人と交流することができ、視野が広がりました。また既に活動を展開している学生は、その活動を広めるとともに再評価することができ、ボランティアをしたことがない学生には一歩を踏み出すきっかけになったと思います。

今回のような取り組みを通して、ボランティアのネットワークを構築することで、情報共有や、イベントの実施など、より学生が元気に活動できるようにしていきたいです。

ボランティアセンター学生スタッフによる街頭募金活動

東日本大震災の義援金として昨年度に引き続き募金活動を行いました。いただいたご支援・ご寄附で公益財団法人「瓦礫を活かす森の長城プロジェクト」の応援をしています。 (P76 参照)

募金活動は、5 月から夏休みの 8 月と 9 月を除いた 1 月まで JR 熊谷駅、籠原駅、森林公園駅で募金活動を行いました。尚、2012 年度は、毎月 11 日の震災が発生した日にちに合わせ、記憶を風化させないよう、取り組んでいます。

月	金額	活動場所（駅）
5	¥6, 471	熊　谷
6	¥8, 107	森林公園
7	¥16, 254	熊　谷
10	¥6, 612	熊　谷
11	¥6, 090	籠　原
12	¥15, 878	熊　谷
1	¥14, 661	熊　谷

義援金合計　¥74, 073

↓熊谷駅での街頭募金の様子

平成24年度第2回ボランティア講座
「被災地ボランティア報告会・交流会」

1. 企画の目的

ボランティア活動を通して以下の3つが目的である。

①夏休みの被災地ボランティアでお世話になった「いわてGIGA-NET」の学生スタッフをお呼びして「いわてGINGA-NET」について知ってもらう。

②実際ボランティアに参加した学生から報告をしてもらい、聴講する学生に活動を理解してもらう。

③グループワークを用いて教師や一般の方、学生を問わず、誰でも情報を共有出来き、今後の関係や活動に生かせるようにする。

以上のことを踏まえて、情報共有の大切さや今後の被災地ボランティアや今後の活動をよりよく出来るよう目的とする。

2. 日　時

12月1日（土）　10時40分～16時40分

3. 場　所

5号館206教室

4. 対　象

全学部学生

5. 講　師

「いわてGINGA-NET」キャスト　　小原裕也さん　　齊藤一真さん

6. 参　加　者

講師・・・・・・・・・・・2名
学生（学外を含む）・・31名
教員・・・・・・・・・・3名
一般・・・・・・・・・・4名

7.　アンケート結果

①アンケート協力者数

学内学生（大崎キャンパスを含む）・・・2名

一般・学外学生・・・・・・・・・・・・・4名

②アンケート内容（任意）

1）本日のイベントを何で知りましたか。（複数回答可）

ボランティアセンター	2名	講義	0名
ポスター	0名	ビラ	1名
友人	2名	メールマガジン	1名
公式Facebook	4名	その他	0名

2）イベント内容はいかがでしたか。

満足	4名	やや満足	1名
普通	0名	やや不満	0名
無回答	1名	不満足	0名

3）イベント時間はいかがでしたか。

長い	0名	やや長い	2名
普通	3名	やや短い	0名
短い	0名	無回答	1名

4）スタッフの対応はいかがでしたか。

満足	4名	やや満足	1名
普通	0名	やや不満足	0名
不満足	0名	無回答	1名

5）今後、ボランティア講座では震災をテーマにしたイベントを開催したいと考えていますが、どのような内容を取り入れてほしいですか。

・地域での「つながり」づくり、コミュニティ再生などをテーマに埼玉でできること、すべきことなどについて考えるイベントなどいかがでしょうか。

・もし、震災が起きた時の対処法、防災について。

・ワークショップで様々な意見を取り入れる内容。

・メディア格差について。

・PTSDなどの被災者の精神疾患について。

・自分たちの地域に目を向けた地域づくり。

6) 本日のイベントの印象に残ったこと、感想などをお聞かせください。

・大変素晴らしい内容でした。
・午前の基調プレゼンは重要な内容であり、午後の報告会もアットホームな工夫がされていて良かったです。
・多くの聴講者が集まるような曜日、時間帯にすべきである。
・全体の時間が長く、もう少し内容を考える必要があるように思う。
・新たな関わりができ、またぜひ参加をしたい。
・様々な意見を出し合い意見を共有できた。
・今後のボランティアセンターイベントに期待している。

8. 良かった点と課題

【良かった点】

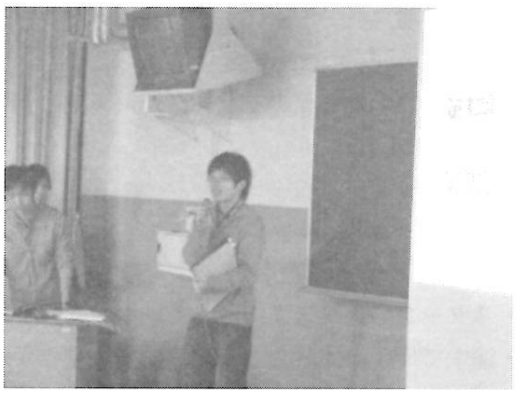
・他者と共有できるボランティア講座づくりが出来た。（アットホームさ）
・イベントの内容の充実。
・新たな人（他大学や一般人、教員等）と人の関わりの形成が出来た。
・グループワークの取り入れ。
・学生を講師にお呼びしたことで、より聴講する学生の意識が深まった。

【課題】

・ボランティア講座の時間が長い。
・SNS 以外での広告の強化。
・学生の都合がよい時間帯にする。
・より専門的なイベント内容。（例：地域に向けた支援、病理や心理的なケア、メディア格差等）
・ボランティアセンタースタッフと講師の打ち合わせの強化。

9. 活動の様子

↑いわて GINGA-NET キャスト小原さん



↑いわて GINGA-NET キャスト齊藤さん

2013 年度

東日本大震災ボランティアの記録

こちらの記録は 2013 年度立正大学社会福祉学部ボランティア活動推進センターの報告書から抜粋したものです。

(2)震災関連活動
被災地ボランティア　活動報告
いわて　GINGA-NETプロジェクト(夏銀河)

1. 主催

特定非営利法人いわてGINGA-NET

2. いわてGINGA－NETとは

東日本大震災の発生により、避難所や応急仮設住宅で暮らす多くの避難者の方の生活を支えるためには、長期的な様々な支援が必要である。こうした被災地の要支援ニーズと学生のボランティアニーズを効果的に結びつけるために、岩手県立大学、社会福祉協議会と県外のNPOが連携し、「いわてGINGA-NETプロジェクト」は結成された。立正大学ボランティア活動推進センターでは、2012年夏の活動から、他大学との災害時学生ボランティアネットワーク形成の場となればとの思いから、参加を決定し、参加者の支援を行っている。

3. 活動期間

3期　2013年9月4日(水)～9月9日(月)

4期　2013年9月11日(水)～9月16日(月)

4. 活動場所

岩手県釜石市ほか

5. 宿泊場所

五葉地区公民館

(岩手県気仙郡住田町上有住字中埣63)

6. 入浴施設

宿泊拠点近隣の入浴施設を利用

7. 活動内容

・両石漁港(昆布干し・加工、漁港の清掃・草刈、子守り)

・菜の花プロジェクト(菜の花の脱穀)

・平田仮設地区(お茶っこサロン)

・パンカフェ

・金沢畑(石堀、草取り)

・子ども支援

8.　活動紹介

・両石漁港

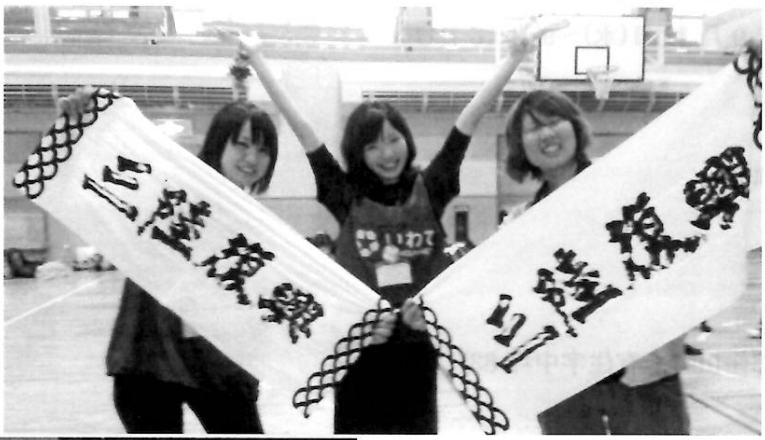
両石漁港では、昆布干し・昆布の加工、漁港の清掃・草刈、漁師さんのお子さんの子守りを行いました。昆布の加工・昆布干しの活動では、両石に水揚げされ、予め 20 ㎝程の長さに切られた昆布の天日干しを行いました。また、干した昆布の両端にある部分を一枚ずつ丁寧に切りながら袋詰めも行いました。

・菜の花プロジェクト

菜の花プロジェクトでは、菜の花の脱穀を行いました。昔ながらの脱穀機を使い、脱穀し、ふるいにかけて種を取り出しました。また、この種は菜種油となり販売されています。この菜種油のラベル張りが被災者の雇用につながっています。

・平田仮設地区

平田仮設地区では、お茶っこサロンを行いました。お茶っこサロンとは、仮設住宅で暮らす方々とお茶会をしながら交流を深め、コミュニティ形成のお手伝いを行う活動です。紙面やメディアでは語られない想像を絶した体験談を聞くことができました。



9. 活動スケジュール

1日目	6:00	熊谷駅南口 出発、途中ＳＡにて昼食
	13:00	五葉地区公民館　到着
	13:30	オリエンテーション
	14:00	沿岸視察
		夕食、入浴、買い出し
	18:30	五葉地区公民館　到着
	19:00	活動オリエンテーション
		活動グループ分け
		振り返り・打ち合わせ
	23:00	消灯
2~5日目	7:00	起床、朝食
	9:00	出発、活動開始
	15:00	活動終了
		入浴、買い出し
	18:30	五葉地区公民館　到着
	19:00	夕食
	20:00	振り返りミーティング
	23:00	消灯
6日目	7:00	起床、朝食
	8:30	清掃
		最終オリエンテーション
		振り返り
	11:00	五葉地区公民館　出発
	21:00	熊谷駅南口　到着

10. 参加者数

3期　22名

4期　25名

11. 参加者アンケート結果

※提出者 男15名 女28名 計47名

(1) 今回参加したきっかけは何ですか。

ボランティアセンターの広告、宣伝など	12名		
ボラティアに興味があった	8名		
復興支援をしたい	11名	友人の紹介によって	4名
昨年度の継続	6名	その他	1名

(2) 今回のボランティアを何で知りましたか。

ボランティアセンター	25名	講義	13名
メールマガジン	6名	友人	9名
ビラ	2名	その他	1名

(3) 事前説明会はどうでしたか。

満足	16名	やや満足	12名
普通	11名	やや不満足	2名
不満足	0名		

(4) 今回参加してみて満足度はどうでしたか。

満足	35名	やや満足	10名
普通	5名	やや不満足	1名
不満足	0名		

(5) 報告会を開くとしたら参加したいと思いますか。

ぜひ参加したい	17名	参加したい	18名
どちらともいえない	8名	参加しない	0名

(6) 今後のボランティアでやってみたいこと、企画してほしいことはありますか。具体的な内容・要望をお書き下さい。

・岩手の今を伝える
・防災関係を企画してほしい
・銀河ボランティア以外にも企画してほしい
・報告会
・地域住民とも交流できるボランティアがしたい
・地域住民がおすすめするスポットを共に歩き回る
・熊谷の歴史を知りながら清掃をする企画
・今回のボランティアで子ども達に対する学習支援をしたので、熊谷でも子どもたちの学習を支援するボランティアに参加したい。
・全員がサロン活動できると良いと思った。
・もう一回被災地に行くこと

・埼玉も竜巻や台風の被害を受けていたので、自分たちの地域の対策をしていきたい。
・GINGA で学んできたことの実践を使ったプログラム。熊谷、埼玉という地域を知る、活かす、より良くするための地域づくりやコミュニティ支援。

(7) 今回の活動を総括して、またボランティアセンター全体に関して、ご意見・ご感想をお聞かせ下さい。

・とても素敵で充実したボランティアになった。
・被災した地域住民の方の強さ、温かさ、絆を見て、感じ、自分にとってプラスになった。菜の花の活動を通じて人と協力する大切さを知ることができ、大いに感動した。今後は様々なボランティアに参加していきたい。
・最初ボランティアセンターに行ったとき、どこにあるのか分からなかった。場所をはっきり教えてくれないので不親切だった。
・大崎キャンパスの学生でも気軽に参加できるようになったら、参加者がより増えると思う。参加前より詳細な情報(宿泊地の環境、生活のこと)があるとより良くなる。
・活動期間中は GINGA-NET さんにスケジュールを任せているせいか最終日のバスの出発が少し手間取っていたように見えた。バスリーダーを決めて、その人が立正生を誘導してもらえると更に良いと思う。
・6 日間何から何までありがとうございました。とても貴重な体験ができました。
・被災地の方のお話、大学生同士での交流を通して、様々な考え方を持っていて、沢山学ぶことがあって、今回参加できてよかったです。学んだこと、経験したことを広めていくことが大事だと思いました。また、参加したいです。
・ボランティアセンターがあってよかったです！自分ではどの団体が良いのか分からなかったので、きっかけを提示してくださって本当にありがとうございました。今後もボラセンに行ってボランティアを探したいです。
・今回の活動を通して、被災地の状況を沢山知ることができ、学ぶことも多くありました。今回のボランティアで終わり、ということではなく、継続的な支援をしていきたいと思いました。普段の生活では分からない貴重な経験をすることができ、今回参加できて良かったです。
・今回の銀河は大学から配信されるメールで知りました。大崎キャンパスではボランティアの紹介が少ないのでもっと活発に広めてほしいです。

12.　担当者感想

・説明会で食物アレルギーを持つ参加者が多くて、対応に苦労した。企画・運営する上で、スタッフ同士が報告・連絡・相談・確認の大切さを痛感した。

13.　参加スタッフの感想

・4日間違う地域での活動。現地に行って自分の目で現地の様子を知ることができた。仮設住宅の人たちとのコミュニケーションの取り方が難しかったが積極的にコミュニケーションをとれてよかった。全体を通して活動を楽しんだ。

・被災の経験の話を語り継がなければいけないと思った。話を聞いてあげることしか出来なかった。しかし、聞くことで相手の方が楽になってもらえたと感じ、嬉しかった。

14.　成果

・ボランティアのニーズに答えることの大切さを知った。

・自分の足りないところに気づき、自分から行動することの大切さを知った。

・全国の学生と交流し、関係性を築くことの大切さを学んだ。

15.　課題

・3期でキャンセルが入り、対応がごたごたした。

・説明会の1回目の際、想定外の質問を受け、きちんと回答が出来なかった。

・銀河担当内でも情報が錯綜し、交流会がぶっつけ本番となってしまった。

瓦礫を活かす-森の長城プロジェクト 参加報告
(宮城県岩沼市植樹祭)

1. 日時

2013年6月9日

2. 活動場所

宮城県岩沼市下野郷字浜地内

3. 主催

公益財団法人「瓦礫を活かす森の長城プロジェクト」

4. プロジェクト概要

震災瓦礫を埋めて、盛土を築き、その上にシイ・タブ・カシ類を中心とした土地本来の樹種を植樹して森にしていく。

津波災害時、押し波では多層構造の森が緑の壁となって、津波のエネルギーを減殺し避難する時間を稼ぐことができる。また引き波では、深根性直根性の根に支えられ、倒れない木々が漂流する人々や家や車を受け止め、沖に流されるのを食い止める。(HPより)

5. 参加者

8名

6. 宮城県岩沼市植樹祭について

当日は、ボランティアの募集枠3,000名のところ、約4,500名の方々が参加し、合計30,000本の苗木を植樹。植えた樹種は土地本来の広葉樹など、全17種。約15年から20年ほどでいのちを守る森の防波堤へと育つ。

また、植樹祭に使用された苗木代と植樹資材費のほとんどは、財団に対する多くの企業や団体、個人の寄付によって賄われた。(HPより)

7. 参加者感想

毎月行っている募金活動の寄付先である、プロジェクトに参加し、まず大勢の方が集まっているのに驚いた。参加者が二度とあの津波被害を起こさないことを考えているのかなと感じた。いろんな方と一緒に作業することで交流もでき、とてもよい経験となった。

募金活動および学内掲示用ポスター　　http://greatforestwall.com/

森の長城プロジェクトとは

平成23年3月11日、2万人余の犠牲者と甚大な被害をもたらした東日本大震災。一年が経過した今、被災地はいまだに大量に発生した震災ガレキの処理ができていないのが現状です。被災地域の復興には、将来の巨大津波に対応するため、防潮堤の整備が不可欠です。私たちは、青森県から福島県に及ぶ太平洋岸に、ガレキを活用して盛土を築き、その上にシイ・タブ・カシといった土地本来の照葉樹、低木・草花からなる森を育て、巨大津波から命を守る森の防潮堤を築いていくことをめざします。

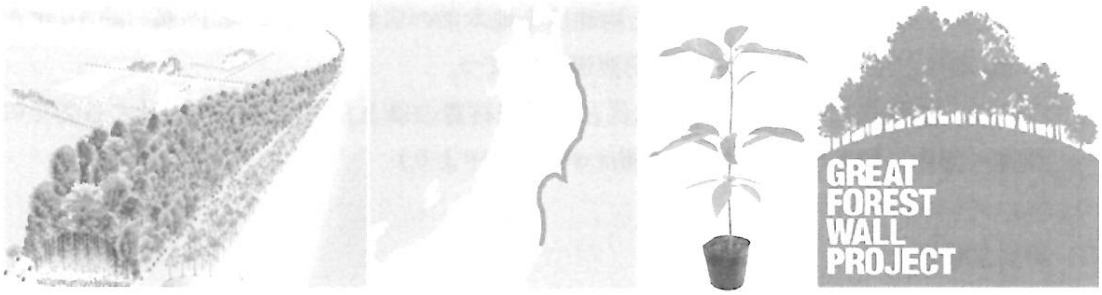
❶ ガレキを活かす「森の長城」をつくる

目標総延長は300㎞（青森県～福島県の太平洋岸）。幅30m～100m、高さ10m～15mの残土とガレキを利用したマウンドを築き、タブノキやカシ類、地域の草花からなる「ふるさとの木によるふるさとの森」をつくります。

❷ 森に植樹するポット苗9千万本の生産と植樹

ポット苗の生産体制を確立し、被災地域の経済的復興にも寄与することを目指します。

目標本数：9,000万本/300km



公益財団法人「瓦礫を活かす森の長城プロジェクト」事務局

お問い合せ先　〒104-0028　東京都中央区八重洲 2-2-1 ダイヤ八重洲ロビル 2 階
TEL：03-3273-8851　FAX：03-3273-8871
mail: info@greatforestwall.com

ボランティアセンター学生スタッフによる街頭募金活動

東日本大震災の義援金として昨年度に引き続き募金活動を実施した。いただいたご支援・ご寄付で公益財団法人「瓦礫を活かす森の長城プロジェクト」の応援をしている。

募金活動は5月から夏休みの9月を除いた1月までJR熊谷駅北口・南口で行った。尚、2013年度も一部を除き、毎月11日の震災が発生した日にちに合わせ、記憶を風化させないよう、取り組んでいる。

1.成果

月	金額
5	¥6,842
6	¥12,555
7	¥4,873
8	¥11,951
10	¥2,920
11	¥15,101
12	¥19,237
1	¥21,405

義援金合計　¥94,884

2.感想

・冬場の寒い中「頑張ってね」の一言がとても嬉しく感じた。
・小さなお子さんも協力してくださり、温かい気持ちになった。
・夏場の募金では、猛暑の中、足を止め募金してくださる方が多くいた。